令和８年度第１回周南市地産地消推進協議会　議事録

【日時】令和８年 11 月 11 日（水）14 時 00 分～15 時 45 分
【場所】周南市シビック交流センター　交流室 7

・出席者　15 名（うち代理１名）（順不同）
・事務局　4 名
・傍聴者　0 名

１．開会

●事務局　　ただいまから、令和８年度第１回周南市地産地消推進協議会を開催します。本日はよろしくお願いいたします。
それではまず、会長からご挨拶をお願いします。

２．会長あいさつ

（会長あいさつ）

●事務局　　本日の会議は、規定により議事録を公開することとなっております。発言者の氏名は伏せた状態で公開します。議事録は、市ホームページで公開いたします。
本日の議長は、清原会長にお願いします。

３．「周逸グランプリ 2026」の開催について

■会　長　　まず、「周逸グランプリ 2026」の開催について、事務局から説明をお願いします。
●事務局　　事務局説明（1 次審査および公開情報について：資料１）
■会　長　　今回は既に販売されている商品の審査となるため影響はないと思うので良いと思います。
□委　員　　今年のグランプリへの影響はないと感じております。
■会　長　　出た意見等は、2 次審査が終わった後も事業者へは伝えないのでしょうか。
●事務局　　2 次審査後の詳細についてはこの後説明させていただきますが、最終的に公表する情報としては、グランプリ商品のみで、2 位以下の情報については公開しない想定としています。そのため、協議会員の皆さまへお伝えする情報といたしましては、実際に審査をした結果を情報としてお伝えする予定としています。
■会　長　　商品が良くなるという点でも、せっかく出品してくださった事業者にとっても伝えられる情報は伝えてあげられたらいいなと感じました。
●事務局　　去年同様、採点審査とは別に審査員の皆さまからいただくコメントシートについては事業者にフィードバックという形でお渡しをさせていただく予定です。
■会　長　　それなら問題ないと思います。それでは、2 次審査についての説明をお願いします。
●事務局　　事務局説明（2 次審査について：資料１）
□委　員　　2 ページの審査方法の配点について、「品質性・信頼性」の部分の配点が 10 点で

他の項目より低く設定されていますが、消費者の方から見れば結構指摘される部分だと思います。「味と価格のバランス」の部分から 5 点分移した方が良いのかなと個人的には思いました。

■会　長　　「味と価格のバランス」を 30 点にしないといけない根拠があればお願いいたします。

●事務局　　今回この点を重視したのが、ごはんのおともは市民の方が毎日食卓で食べるものという視点から、『おいしい』という点が最重要視されるのではという考えから、味の配点は高く設定しているという所があります。その中で、昨年度初めてグランプリを開催し、市や協議会が推していく商品として、市内産の農林水産物の使用割合や周南市らしさがあるという点は配点を高くした方が良いという皆様からの意見も反映しております。

●事務局　　審査基準および得点については、既に HP で公開している情報となります。

●事務局　　今回は既に販売されているものを対象にしている点、生産量も年 10,000 個を生産できる体制が取れるという点を条件にしておりますので、応募可能な事業者の皆さまは、安全性やクレーム対応等の点については対応可能という想定です。

●事務局　　協議会の皆さまに今回審査いただくため、品質性や衛生管理の点については、皆様で判断が難しい部分がある点も考慮しています。

■会　長　　既に商品化をしているという点で、これらの事項は当然クリアできているという認識なら理解しました。

□委　員　　形式が表敬訪問のような少し閉ざされた場になるのか、イベント等の開かれた場で披露されるのかで、伝わり方が違うのかなと多少気になりました。

■会　長　　確かに、次回以降の盛り上がりや応募される方々の意欲にも影響する部分だと思うので、可能な限り賑々しく、市民の皆さまへ広報できる形で計画していただければと思います。

□委　員　　いか・たこ祭りの際に、市の LINE で宣伝したら、前日に配信したにもかかわらず、集客効果があった、最近の若い人はテレビを見ない人も多いのが現状で、HP 等もいいが、SNS 系を積極的に活用して、有効的な情報発信を考えていただければと思います。

●事務局　　現在、Instagram、X、Facebook を活用していたが、LINE も含めて新しい情報発信の方法を検討していきたいと思います。

■会　長　　テレビもだが、新聞を見る人の割合もどんどん減っているため、貴重な提案だと思います。公平公正の観点で選んだ後に、大々的に売り出していきたいです。昨年と同じように道の駅ソレーネ周南内の特設ブースで販売されるのでよろしいでしょうか。

●事務局　　周逸グランプリ 2026 の決定後については、認識の通りで、現在の周逸グランプリ 2025 受賞商品と入れ替わる形で、商品が置かれる予定です。ただし、周逸グランプリ 2025 受賞商品についても、ＰＯＰ等で受賞商品ということがわかるような形で差別化して、引き続き販売・ＰＲしていけたらと思っています。

■会　長　　周逸グランプリ 2025 受賞商品の駅での取り扱いはいかがでしょうか。

●事務局　　販売が可能な場所と難しい場所があり、事業者の方で調整を進めています。

■会　長　　かしこまりました。周逸グランプリ 2026 受賞商品の審査会の進め方については理解しましたので、あとは幅広く伝わるように周知をどうやっていくのかをより検討していただければと思います。

４．「周逸グランプリ 2027」の開催について

■会　長　　続いて、「周逸グランプリ 2027」の開催について、事務局から説明をお願いします。

●事務局　　事務局説明（募集ジャンル案・過去グランプリ受賞商品の取り扱いについて：資料２）

□委　員　　何連覇とかないということですよね。2 連覇・3 連覇できるようにとか。

●事務局　　ジャンルが毎年変わっても、商品によっては要件を満たして連続で応募が可能な場合がありますが、1 度グランプリを受賞した商品については、再応募は不可としたいと考えています。

■会　長　　グランプリの趣旨を考えると、提案通りで良いと思います。
特に皆様から異論がなければ、次の検討事項について、説明をお願いします。

●事務局　　事務局説明（ジャンル案①「おつまみ」（期限・保存性について）：資料２）

□委　員　　賞味期限 3 ヶ月以上というのは資料に書いてある通り、応募可能な商品が限定されやすい点があり、7 日以上であれば、1 ヶ月程度の良い商品も応募される可能性があると思います。販売店側のことを考えると、長ければ長いほどリスクが削られて良いとは思いますが、最低 7 日以上の条件の方が、良いおつまみが出てきやすく、お酒を飲む方々にとっても、応募事業者にとっても良いのではないかなと思います。

■会　長　　事前アンケートの結果はいかがでしょうか。

●事務局　　半々の割合となっています。

■会　長　　それなら、この場での皆さまの意見を尊重させていただきたいと思います。

□委　員　　販売店からすると、7 日は厳しいというのが現実です。

●事務局　　最低どれくらいの期限設定欲しいという目安がありますか。

□委　員　　個人的には 14 日くらい。7 日だと、賞味期限残り 2 日前になると値引き等を検討しないといけなくなり、そうすると仕入れ価格等も考慮しないといけなくなります。7 日間売れるというわけではないため、正直少し厳しいかなと思います。

□委　員　　スーパーについても、今おっしゃった通りで、販売限度日の設定があり、期限ギリギリまで販売できるわけではなく、実際に販売できる日が 3 日とか 4 日になってしまうので、かなり回転率の高い商品でないと難しいかなと思います。周逸や周逸グランプリに選ばれる商品は、我々の業界の言葉で表現すると尖った商品という分類になりますが、単価の高い商品になると思うため、回転率を求めると少し難しいと感じます。そのため、要冷蔵で 7 日とかなると、取り扱いを少し躊躇してしまう部分があります。

□委　員　　お酒は毎日飲むでしょうから、2 週間持てば量にはよるが、ある程度は好きなおつまみを回せそうな気がします。

□委　員　　期限が短いのにするか、長いものにするかについては、何を重視するかによるのかなと思います。部門分けするのも 1 つの手法かなと思います。

□委　員　　市長を含めて市の方とかがどこかへ持っていくときに PR も兼ねてしやすいように

周逸グランプリの制度ができるときにあったと思います。7 日の期限で市長が対外的に持っていけるのかなという点も気になります。

■会　長　　初年度はお土産だったからですか。

□委　員　　なら今回は、その点は考えなくても良いということでしょうか。

●事務局　　場合によっては使用するシチュエーションもあるかもしれませんが、基本的にはお土産という形ではないので、一般の方が日常で消費することをメインに想定しています。

□委　員　　期限が短いとやはり回転率、売れる数っていうのは限られてくる部分や、冷蔵・冷凍だと、販売スペースも限られ、常温と比べてこじんまりとして目立ちにくく、販売・設置場所が制限されると思います。道の駅の特設ブースも常温だから目立つところで、大々的に PR できていますが、冷蔵・冷凍となると同じように行かないのではと感じています。

□委　員　　サブのターゲットとしてギフトやお土産を想定していて、市長が対外的に持っていく可能性があるのなら、1 ヶ月以上の期限があったほうが良いのかなと感じています。

□委　員　　お酒を飲む頻度があると思います。毎日飲む方もいれば、何日かおきに飲む方もいて。お刺身のような生ものであれば今日のためにという風に購入すると思いますが、今度飲むときにと購入する場合は、7 日くらいだと少し短く、消費者としてはもう少し期間があると助かります。

●事務局　　賞味期限に制限による応募商品の狭まりについてはいかがでしょうか。

□委　員　　長くすると干物系が主になってきて、乾きものというテーマならいいかもしれませんが、美味しいものを求めるなら賞味期限が短い方が美味しいと思います。

□委　員　　年間 10,000 個を売ろうという考えがあるのであれば、やはりお店側のロス率は考えてあげないといけないのではないかなと思います。

■会　長　　「おつまみ」にするか「お手軽食品」にするかを決めないといけない中で、日本酒と言えば生ものだし、ビールだったらソーセージが合うと思います。高知の名産品として有名なおつまみの「酒盗」について、前に酒蔵で実験をしてもらったこともあるのですが、日本酒には絶品ですが、赤ワインには絶対合わないんですよ。そういう点も含めて、「おつまみ」に条件を決めていくのは難しいと感じています。

□委　員　　チルドの方が美味しいのは確かに事実で、我々としても販売したいのですが、冷蔵商品だと先ほども述べられたように、販売場所が限定されてしまいます。ブルーチーズをはじめとして少し特殊なチーズも取り扱ってはいるが、上記の点やロット数も含めて、全部低下で売り切れていないというのが現状です。逆にナッツ系やせんじがら、イカの形をしたフライ等は回転率も高く、よく売れるので店側としては助かる商品だと感じています。現実問題、小売店・量販店の実態はこのような感じで、年 10,000 個を販売していく側としてはその点が気になると感じました。

■会　長　　ありがとうございました。他に意見がなければ次の事項に移らせていいただきます。

●事務局　　事務局説明（ジャンル案①「おつまみ」（日頃お酒を飲まない委員の審査基準について）：資料２）

■会　長　　委員の方でお酒を飲まれない方もいらっしゃるんじゃないでしょうか。

●事務局　　事前アンケートの割合は半々でした。

□委　員　　審査基準を分けるのは難しいのではないでしょうか。

●事務局　　基準をわけると、審査としてもどうなのかという部分については意見もありました。

□委　員　　それなら１つにするしかないと思います。

□委　員　　美味しいものは美味しいと思いますし、１つで大丈夫だと思います。

●事務局　　事前アンケートの中でも、自分はお酒が飲めないが、好きな飲み物とおつまみで疑似晩酌みたいな形で楽しんでいるという意見をいただいていますので、味の審査というところの同一基準で、お酒が飲める方はご自身の好きなお酒との相性の部分で総合的な評価をするのがいいのかなと考えています。

■会　長　　事務局で検討いただけたらと思います。異論がなければ次の事項の説明をお願いします。

●事務局　　事務局説明（ジャンル案②「お手軽食品」：資料２）

□委　員　　なんとなくおつまみと重なる気がします。災害活用の方については、選ばれたら何か災害グッズと一緒に紹介とかするのでしょうか。自分たちで災害グッズを準備して欲しいという案内はよく耳にしますが、防災食としての活用も関係してくるのでしょうか？

●事務局　　防災食としての活用を目的の１つとして含めるのであれば、賞味期限と常温保存を要件としたうえで、そういった活用先でもできる商品を求めたいというのがありました。もう一方の提案の方については、忙しくて時間がない日や疲れた日にという点に目的を絞り、賞味期限も災害用の想定よりは短くし、常温に限らない商品を応募したいと考えています。

□委　員　　災害用となると、周南市民の人口を考えても、量が必要になってくるとおもいます。意味合いとしては、災害時にも活用できるという捉え方で良いのでしょうか。普段は日常の主婦等の忙しさを少し緩和できたらというのが主目的だが、災害時でも活用はできるというイメージでしょうか。

●事務局　　そういう想定です。また、災害時の活用は審査基準に入らない想定です。

■会　長　　周南市内にこういう条件の商品や製造可能な事業者が実際にあるのでしょうか。

●事務局　　要件をどちらにするかにはなりますが、レトルト食品も含めて、我々の把握している限りでは、少ないというのが現状です。

□委　員　　缶詰については、この地域では難しいので、別の地域の事業者に委託するようになると思いますが、レトルト食品については、やろうと思えばいくらでもできるとは思います。

●事務局　　我々も新商品の応募を期待しており、募集時期を早めて、周知を行っていきたいと考えています。

●事務局　　常温のみで半年以上持つと、売る側としても販売しやすい点や、今までに周南市ではあまりない領域だからこそ、注目度も高くなると想定しています。

□委　員　　お手軽食品について、例えば玉ねぎを入れるだけで簡単に美味しく食べれるような商品があると思います。賞味期限が長いのをお手軽として求めるイメージなのでしょうか。

●事務局　　そのまま食材を追加しないものを想定しています。よくある青椒肉絲の素のような

時短商品ではなく、単に温めたり封を切れば食べられるものや、ごはんにかけるだけのものを想定しています。

■会　長　　なら、麻婆豆腐の素も対象外となりますね。

□委　員　　認識の違いがあるのかもしれませんが、パスタ、そば等の麺類にかけるものというのは、まずパスタやそばを茹でる必要があると思います。しかし、対照的に焼くだけ・鍋で煮込むだけというものが対象外となっており、現在は時短商品として冷凍で固まったもので鍋に入れるだけで済むという商品もあるなかで、どちらがお手軽で掲げている目標を達成できる点という部分にギャップが生まれる気がしています。

□委　員　　米や麺類の主食の準備をしている段階で、できる簡単なもので、それらにかけたり、からめたりして食べられるものと定義したら良いのかなと思いました。

●事務局　　現時点では、主食は準備する想定の基準で案を作成しています。

□委　員　　昨今、主食をあまり食べない方もいらっしゃるかと思います。夜は炭水化物を食べないという若い方も増えているような気もします。「簡単な調理」の定義について、もう少し何か具体性を担保できると理解されやすいのかなと思いました。

□委　員　　販売面期限や期限、量を考慮すると、ジャンル案としては「お手軽食品」の方が総合的に優位と思いました。「お手軽食品」のなかで「おつまみ」を兼ねるものもあると思います。

□委　員　　両方のジャンルに同じ商品を応募することは可能なのでしょうか。

●事務局　　仮に来年「おつまみ」、その翌年「お手軽食品」とした場合、応募商品がグランプリに選ばれておらず、要件を満たしていれば応募は可能です。

□委　員　　レトルト食品を募集する場合、周南市には現在そこまでないのでは。

□委　員　　山子ごはんやカレーがあります。レトルトもいいですが、フリーズドライ等も保存食品としてあります。レトルト加工について、周南市内で加工する事業者は現在いませんが、県内では何事業者かやっています。

□委　員　　販売面を考えるとやはり、レトルトや缶詰、フリーズドライ等に絞ったほうが、総合的に良い気がします。

□委　員　　レトルトやフリーズドライ等に絞るのであれば、「美味しい防災食」みたいな方がイメージはしやすい気がします。私自身詳しい方ではないですが、各地で防災商品の試食等をメーカーが提供するという話をよく聞きます。ただし、周南市発である必要性については検討事項なのかもしれませんが、「美味しく食べる周南産防災食品」の方がキャッチ―かなと思います。

□委　員　　防災については、今関心も高まっているので良いと思います。

□委　員　　私のお店には、結構年配の方も来られますが、県外進学で初めて一人暮らしを始めた調理のできない子どもやお孫さんのために、日持ちのする簡単に調理できるものを買って春先に送られる方が結構いらっしゃいます。そういう点を含めて良いPRになると感じています。

●事務局　　その場合大体どれくらいの賞味期限の長さが求められますか。

□委　員　　長ければ長いほど好まれます。春に高校を卒業したばかりのような子を想定して送られるので、「簡単・長い」が前提だけど、美味しいものを食べさせたいという想いをよく聞きます。

□委　員　　今の話なら、一緒に野菜とかも送れますよね。一緒に送るものが周南市産や山口県産なら相乗効果でなお良いと思います。

□委　員　　防災については、主目的ではなく、応募商品によっては活用方法の１つとして検討する程度でいいのかなと思いました。

●事務局　　市民の方も防災に関心が高まっている中で、防災食については非常時に食べるという意味合いが強く、周逸グランプリで地産地消を PR していく際に、より多くの人に消費たくさん消費してほしいという主目的に反する部分があるのではという意見もあります。

□委　員　　私はその方がいいと思います。

□委　員　　周逸グランプリを選ぶことは、最終的に周南市の名前を地域外に広める意味があると思います。市民の方も含め、周南市の良いものをどんどん食べてほしい。ちなみに、私は、「おつまみ」で良いと思っています。賞味期限や保存方法についての議論がありましたが、商品によって食べ方や合わせ方、タイミングは変えますし、お酒と一緒に食べない場合もあります。各々がそれぞれの食べ方のパターンがあると思うので、「おつまみ」が募集ジャンルでも大丈夫という感覚を持っています。

□委　員　　私は飲食店を経営している立場で、グランプリの応募についても検討しましたが、レトルトや缶詰、グランプリに選ばれた場合の年 10,000 個の生産体制等の要件を聞くと、飲食店側からするとハードルが高すぎて、なかなか厳しい現状だと感じています。「魚の西京漬」等を思い浮かべましたが、焼くのはダメとなると難しいと感じています。

●事務局　　今のようなものを商品化する際、地場産業振興センターで試行錯誤等を繰り返して販売可能な状態になるまでには、どれくらいかかるのでしょうか。

□委　員　　すぐできるものもあれば時間がかかるものもあり、場合によるという感じです。個人的には飲食店の方が考えたレシピを商品化できれば本当に面白いと思いますし、そういう流れができればいいですが、地元に加工所がないのがネックとなっています。

□委　員　　受賞商品がふるさと納税の対象商品になるのは、応募の動機付けになると感じました。

●事務局　　受賞商品だけではなく、その他の応募された商品についても、要件を満たしており、事業者の方が望まれる場合は、担当者に案内する体制は整えています。

□委　員　　「おつまみ」の場合だと、おつまみを宣伝すると同時に、周南市内の酒蔵・商品についても PR することが可能な点や「お手軽食品」の場合だと、道の駅ソレーネ周南が防災道の駅であるため、市民の方は是非ご利用くださいとより PR しやすく、どちらがジャンルになっても問題ないと思いました。だからこそ、応募要件をどんどん厳しくして、商品が出てこないようにするのは望ましくないと思いました。

■会　長　　市内の酒蔵のお酒に限定するのであれば、「おつまみ」でも問題ないと思います。

□委　員　　昔、「周逸（しゅうなんブランド）極」を市民投票で決定する際に、宇部市の有名な日本酒『貴』が事前のモデルとしてあがっていました。『貴』は、ロット数が確保でき、日本全国どこへでも持っていくことができ、商品で宇部市の名前をどんどん広めてくれるものでした。その話もあり、市内の酒蔵が極に立候補し、お酒自体には伸びしろがありましたが、日頃ビアガーデンで飲む人はいても、必ずしも家でお酒を飲

む方が多いわけではなかったため、市民投票の結果、『鹿野高原豚』が周逸極に選ばれました。そういう経緯もあり、何が市民や消費者にとって良いのか分かりませんが、地産地消を推進していく中で、

その先の地域外での販路拡大を目指すのも１つの方法と思っています。県外の人にも周南市の名前や商品が広まれば言うことなしと思っています。

□委　員　　毎年ジャンルや要件を変えながら募集するのであれば、要件を縛りすぎるよりも、皆さんの意見を踏まえて、柔軟に事務局のやりやすいやり方で進めたのでいいと思います。

■会　長　　出品してもらえそうな事業者がいるのか気になりました。

□委　員　　私も同意見です。昨年は「お土産（菓子類）」が募集ジャンルでしたが、恐らく今回のジャンルでは、昨年参加した事業者は参加しにくい分野で、今後のジャンルも未定で、商品開発や生産体制をグランプリに向けて強化しにくい面があるので、運営面は大変ですが、審査の方法や工程を簡素化して、部門を分けて募集するのも事業者の応募への動機づけを高める１つの方法と思いました。

□委　員　　5 部門に絞って、毎年同じものを募集し、1 次審査くらいで終われば運営面の負担も減ると思います。

□委　員　　私は去年周逸グランプリ 2025 受賞者が受賞後どういう風に思っているかを聞きたいです。お店に行くタイミングにもよりますが、品薄の時もあれば、商品が大量にある時もあり、消費者からすると嬉しい部分もあれば不安になる場合もあります。PR をしていくうえで、グランプリを受賞して何が良くて何が大変かを聞いてみたいなと思っています。

●事務局　　グランプリを受賞後の品薄の際に、製造が追いつかず、寝れていない日々もあるという声も一時期いただいていました。道の駅の特設ブースでの販売数も多く、受賞商品はグランプリ応募の際に作られた商品のため、前後の比較はできませんが、すごく忙しい反面、受賞については従業員も含め皆さんとても喜んでいるというのは伺っております。

ただし、夏休み等の行楽シーズンは売り上げが増加する一方、通常期については売上が低調となる傾向があるため、市としても引き続き PR を頑張りたいたいと思っています。

■会　長　　他にご意見がなければ、市の方で本日出た意見を検討の上、最終的に決定していただければと思います。

５．閉会

●事務局　　皆さま、本日は大変貴重なご意見をありがとうございました。

最終的に、いただいた意見を踏まえて市で決定し、１２月または１月頃に市ＨＰで募集する予定です。

次回は２月８日の「周逸グランプリ 2026」一次審査となります。詳細につきましては、後日あらためてご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、閉会に際して、農業振興課　道の駅リニューアル推進室長の事務局より一言ご挨拶申し上げます。

●事務局　　（室長あいさつ）

●事務局　　以上で、令和８年度第１回周南市地産地消推進協議会を終了いたします。